



子育て中の親と子が自由に集い、遊びや情報交換ができる「つどいの広場」は、〔つくし〕〔たんぽぽ〕の2か所を開設（写真はたんぽぽ）。

特集 いいね、このまち。 匝瑳市で子育てを楽しもう

— 匝瑳市は子育て家庭を全力で応援しています —

子育てをしていると、悩んだり、心配ごとがあったりと大変なことも多い…。そんな子育てにがんばるお母さん、お父さんを応援するため、匝瑳市は各種施策でサポートします。

**出生数が20年で4割減
本市の少子化の現状**

地域に活力をもたらす子どもたちの存在は、匝瑳市の将来を担う「宝」です。

しかしながら、少子化が全国的に問題となっている中、本市も例外ではありません。平成10年以降の本市における出生数の推移を見ると、増加に転じた年があったものの減少が続ぎ、28年は204人で、10年時点と比べると約44%減少しています。同様に、総人口に占める15歳未満人口の割合を見ても、28年は10年時点から3.7ポイント減の11.0%となっています。 **3ページ・上図**

こうした少子化の背景には、核家族化や女性の社会進出の増加などライフスタイルの変化により、仕事と子育ての両立、また、子育てそのものについても負担感が増していることがあると考えられます。実際に、子どもを持つ保護者を対象に市が行ったアンケートでは、子育ての悩みとして「自分の時間が十分とれない」「ストレスなどから子どもにきつくあたってしまった



佐藤美香さん・土恩くん・伊藤理永さん・春翔くん、土屋厚子さん・湊くん(写真右から)

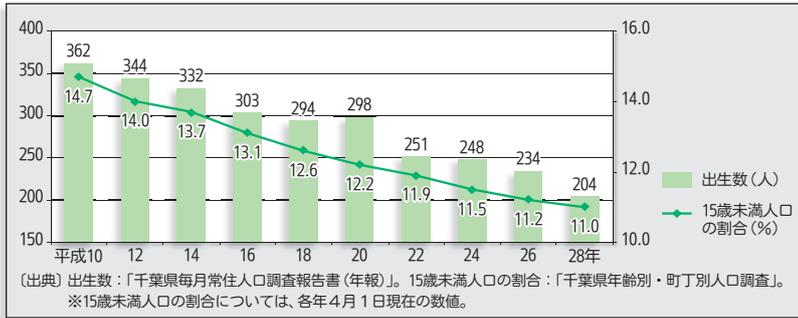
3人は、つどいの広場で出会った“ママ友・ベビ友”同士。「家に子どもと2人だけだと気分がふさがちになってしまうこともあるので、ぜひ一度来てみて」と伊藤さん

●つどいの広場

野栄福祉センター内の〔つくし〕と旧八日市場幼稚園米倉分園の〔たんぽぽ〕。乳幼児対象で、親子のふれあいを大切にした遊びや学びのイベントの他、子育て支援アドバイザーが常駐して、子育ての心配ごとなどの相談に応じています。利用料は無料。

開館日〔つくし〕火・水・木曜日〔たんぽぽ〕月・水・金曜日、第1・3土曜日 ※いずれも祝日除く9時～16時(12時～13時はお休み)

匝瑳市の出生数と15歳未満人口の割合の推移



本市では、生まれてくる子どもの数自体も減っていると同時に、人口に占める子どもの割合も減り続けている

- ▼ 第3子以降の保育所(園)完全無料化
- ▼ 子ども医療費の保険診療分
- ▼ 近隣では例のないチャイルドシート助成も

2ページで紹介した「つどいの広場」では、乳幼児期の子どもを持つ親の「交流の場」を提供しています。ここでは、「子育て支援アドバイザー」が常駐して、子育てに関する相談にも応じています。

子育て親子が集う交流の場を提供

子育てに関する不安や悩みは、親であれば誰もが持つものです。子どもはのびのびと健やかに、お母さん、お父さんには子育ての負担軽減とふれあいを。そんな子育て家庭の願いを叶えるため、市ではさまざまな子育て支援の取り組みを行っています。

子育て家庭を応援市が行う支援制度

「出費がかさむ」といった回答が多く見られました。

助成制度を利用したお母さんの声



石毛恵美さん・稜真くん
(八日市場)

チャイルドシート 子ども医療

チャイルドシート購入費の助成をホームページで知り利用しました。こうした補助制度があるのはすごく助かります。私が仕事復帰後すぐにこの子が体調を崩して病院にかかったことがあったので、医療費助成は心強く感じました。

子ども医療

5歳上の男の子もいますが、やっぱり子どもはかわいいし、成長を見られるのは楽しいですね。医療費が完全無料というのは気兼ねなく病院に行けて安心ですね。



川口美和さん・土翔くん
(高)

新生児訪問 各種助成

母子手帳の交付時に市のサービスの説明を親切にしてくれました。新生児訪問で自宅に来てもらったり、助成制度も何度か利用させてもらいましたけど、ありがたいですね。匝瑳市の支援サービスは手厚いと思いました。



実川八重さん・和花ちゃん
(春海)

子どもの健康づくりにも「父子健康手帳」も交付

- ▼ 安心して子どもを産み、子どもを育てる喜び、楽しみを実感してもらえよう、
- ▼ 妊娠届出時の全員面接
- ▼ 母子保健手帳と併せた「父子健康手帳」の交付

幼稚園保育料の無料化
▼ 第3子以降の学校給食費の減免
▼ その他、近隣では例のないチャイルドシート購入費の助成
も行っていきます。



イクメンを応援!

近隣では行っていない「父子健康手帳」も交付してイクメンを応援。かわいい我が子の成長を記録するのも楽しい

「マタニティクラス(両親学級)」で沐浴の方法を学ぶ桑田さん夫婦。妊娠・出産・育児に必要な情報や手技をレクチャーするこの事業には、イクメンを目指して新米お父さんも積極的に参加

